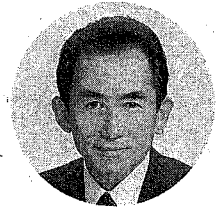


平成25年 2月28日 (木)

産業新聞 4面



村山社長

初代、村山文雄前社長はコイルセンター業界の要職を歴任し、長きにわたり、業界の悲願である加工賃改善に取り組んだ。業界活動に熱心なことと知られ、いつしか付いたあだ名は「ミスター加工賃」。浦安鉄鋼団地設立においても、63年の東鉄連浦安鉄鋼団地協同組合設立時から、当時の城南鉄鋼会会長として、団地造成に向けた取り組みを支援した。

2代目のバトンを受け、村山和雄社長も先代同

浦安ファイル
未来につながる団結と信頼

村山鋼材

厚板部門を全面集約

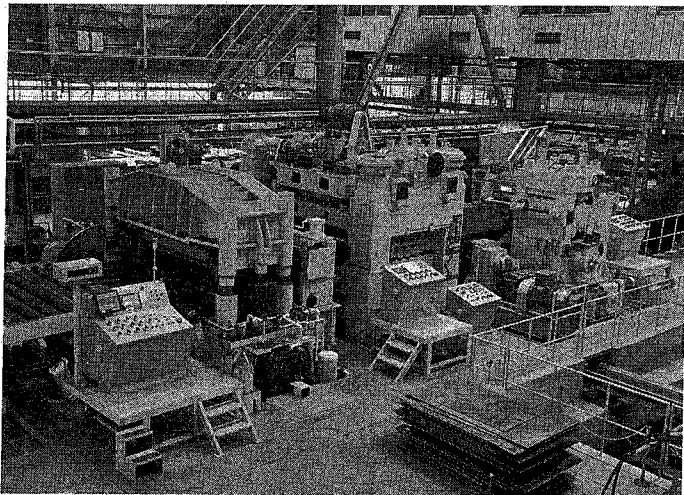
藤澤鋼板との協業体制確立

様、精力的に業界活動に貢献。全国コイルセンター(CCC)工業組合副理事長や関東CCC工業会会長、東京鉄鋼販売業連合会副会長などの重職に就き、浦安鉄鋼団地協同組合では、98年から10年間、理事を務めた。

同社の悲願だった浦安への進出は90年。第二団地に浦安工場を開設し、最新鋭の大型レベラー2基を相次ぎ稼働させた。

翌91年には倉庫業の免許を取得し、第一団地に浦安倉庫を開設するなど、浦安を起点として順調に事業を拡大していく。

昨年は東京工場を閉鎖し、厚板部門の営業・生産を浦安工場に全面集約。総額11億円を投じ、主力機の業界最大級レベラー、ジャンボ・カッティング・ライン1号機の移設を実施し、製販一体体制を整えた。今月には本



ジャンボ・カッティング・ライン1号機

社も浦安市内への移転を果たし、管理部門を含めた三位一体で「景気に依存しない事業基盤を構築していく」(村山社長)方針。

当面の目標は昨年スタートした藤澤鋼板との協業体制の確立。同業者間の過当競争を廃し、信頼関係を土台とした強固な関係を築くことで、互いの加工設備を有効利用し、稼働率向上を目指す。足元

会社概要

本社	千葉県浦安市入船1-5-2 NBF新浦安タワー15階 ☎047(305)8008 ☎047(305)8900
設立	1952年10月20日
資本金	1億円
従業員	102人
代表者	村山和雄氏
売上高	90億円(12年9月期)

▽浦安鉄鋼団地の加工設備
浦安工場(港47)＝ジャンボ・カッティング・ライン1号機(板厚3・2—25・0^{mm}、板幅900—2500^{mm})
ジャンボ・カッティング・ライン2号機(板厚1・6—6・35^{mm}、板幅600—1900^{mm})

浦安倉庫(鉄鋼通り2—6—13)＝キャンチ長さ13・5^m、天井走行クレーン30^t×2基、岸壁水深3—5^m、保管能力7万^t

▽取扱製品＝厚板、熱延鋼板、レーザー切断用鋼板、冷延鋼板、表面処理鋼板など

の月間加工量1万5000^tに対し、早期に1万8000^t—2万^tレベルに引き上げたい考えだ。(音成 泰文)